

総合的な学習の時間での活用

様似町立様似中学校

中学校
第1学年

単元名 「ふるさとのよさを伝えよう」
教材名 「私たちのふるさと」（「おもてなしハンドブック 中学校」P10-12）

1 単元のねらい

自分たちが暮らす地域を情報発信し、ふるさとのよさを見つめ直すことにより、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に貢献しようとする態度を育てる。

2 単元について

本単元は、アポイ岳やエンルム岬、ふれあいビーチなどの地域の教育資源を生かし、名所等の実地調査を位置付けることにより、地域のよさや課題を自ら発見し、課題を解決する能力を育むとともに、地域をよりよくしようとする積極的な態度を養う単元である。

「おもてなしハンドブック」を地域のよさについて考える場面で活用することにより、自分たちが暮らす地域を守っていこうとする態度を育てることができるようにする。

3 本時の展開 【整理・分析】

過程	□主な活動 ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	<input type="checkbox"/> 実地調査した内容を確認する。 <input type="checkbox"/> それぞれが調査し、まとめた内容を班毎に話し合う。 ・自分たちの住んでいる地域であっても知らないことがあった。 ・聞いたことや見たことがあっても話を聞くと改めて感心することがあった。 ・周りの話を聞いて、改めて発見することがあった。	◆メモをした内容を見て、実地調査を振り返るよう促す。 ◆交流の視点は、話し合いの中から新たな発見をすることが重点であることを指示する。
展開	<input type="checkbox"/> 自分たちの住んでいる地域の中で、誇れるところ、紹介したいところはどうなところかを話し合う。 ・自分たちの地域の名所や名産があるね。 <input type="checkbox"/> 「おもてなしハンドブック」P11「北海道のよさを見つけよう」を読む。 ・北海道の自然の価値が世界に認められているよ。 ・北海道のよさは他にもたくさんあるよ。	◆旅行パンフレットなどを参考に観光地ではどのようにアピールしているのかを示す。 ◆「おもてなしハンドブック」P11を活用する。

	<input type="checkbox"/> 「おもてなしハンドブック」P11を参考に自分たちの地域のよさを見付けワークシートを作成する。 ・夏のアポイ岳の登山は、暑いですが、高山植物や頂上から眺める太平洋がきれいです。 ・様似のドラゴンヘッドと呼ばれるエンルム岬は、港町に人たちの強さを表しているように感じます。 ・ふれあいビーチには、夏に多くの人が訪れます。	◆「おもてなしハンドブック」を参考にワークシートを作成し、吹き出しの中を記入するよう指示する。  <授業の様子>
終末	<input type="checkbox"/> 記入したワークシートの内容について交流し合う。 ・うまく工夫してまとめている。 ・友達の意見がとても参考になる。	◇意見交流を行い、相互の意見を取り入れることができている。（発言、記述内容）

4 授業の記録

- (1) 「おもてなしハンドブック」P11-12を利用した生徒の反応
- 訪れた人に伝えたい北海道や自分の住んでいる地域のよさについて
 - 札幌などの大きい都市はよいところがたくさんありそう。
 - 北海道は涼しいのがよいところじゃないかな。
 - 自分たちの暮らしている地域のよさについて
 - 山や海などの多くの自然に恵まれ、自然を生かした町づくりが行われている。
 - 世界ジオパークなどの地域の名所を一人一人が大切にしている。

5 板書、ノート等

夏のアポイ岳

夏のアポイ岳は、登るととても暑いですが、でも「馬の背」という場所にある高山植物や頂上から見える太平洋の海がとてもきれいです。



夏のアポイ岳

アポイ岳は、「かんらん岩」という岩石でできていて、めずらしい高山植物や昆虫が生息しており、「世界ジオパーク」に認定されました。



ふれあいビーチと親子岩

天気の良い時にふれあいビーチから見える親子岩はとてもきれいです。ふれあいビーチの海はきれいで公園やキャンプ場もあります。



エンルム岬～様似のドラゴンヘッド

様似人のドラゴンヘッドと呼ばれているエンルム岬は、まるで港町に住む人々の力強さを象徴しているようです。



<生徒が地域のよさについてまとめたワークシート>

実践のポイント

- 地域のよさについての考えを深めることができるよう、展開で「おもてなしハンドブック」を活用し、地域のよさを考え、交流する機会を位置付ける。
- 進んで郷土の発展に貢献しようとする態度を育てることができるよう、ふるさとの自然や名所等の実地調査など、課題解決のための体験活動を位置付ける。

道徳の時間での活用

帯広市立帯広第八中学校

中学校
第1学年

主題名 礼儀の意義を理解する **内容項目B**〔礼儀〕
教材名 「礼儀の意義を理解し適切な言動を」（「私たちの道徳 中学校」P48-53）
「あいさつ・礼儀」（「おもてなしハンドブック 中学校」P2-5）

1 本時のねらい

礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な挨拶や言葉遣いをしようとする態度を育てる。

2 教材について

本教材は、松下幸之助氏のメッセージなどから、心と形が一体となった礼儀について具体的に考えることができる教材である。

- ① 礼儀作法は「社会生活における潤滑油」のようなものである。
- ② お互いの間をなめらかに動かす役割を果たすものである。
- ③ 心と形の両面があいまった適切な礼儀作法が大切である。

「おもてなしハンドブック」を日常の挨拶などについて考える場面で活用することにより、道徳的実践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	○発問等（◎中心発問） ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「私たちの道徳」P48を読んで話し合おう。 ○ 礼儀や作法に込められた思いを知り、挨拶や丁寧な対応を受けて、気持ちがよい、うれしいと思ったことはありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・朝、友達に会ったときに元気な挨拶をされると気持ちがよい。 ・部活動の時、先輩から挨拶されてうれしい。 	 <「私たちの道徳」P48>
展開前半	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「この人に学ぶ」（「私たちの道徳」P52）を読み、松下幸之助の「メッセージ」に込められた思いを考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・礼儀は、声に出したり、態度で示したりしなければ、伝わらないし、意味がないものと思った。 ・自分自身の気持ちの切り替えが大切だと感じた。 ○ 毎日、家族や友達と、どのような気持ちで挨拶をしているか、「おもてなしハンドブック」P2に記入しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・明るい気持ちで挨拶をいっている。 ・自分の気持ちが相手に伝わるように挨拶をしている。 	◆日常生活を振り返って記入するようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 礼儀を表す挨拶などで、大切にしなければならないものは何だろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・相手を尊重する気持ちをもつことが大切だと思います。 ・時と場に応じた適切な言動をすることで、相手のことを考えることが大切です。 	◇形の根底にある意義を理解し、相手に対して尊敬や感謝等の気持ちを具体的に示すことについて考えている。 (発言、記述内容)
展開後半	<ul style="list-style-type: none"> ○ 形式的な挨拶をしてしまった経験や、された経験を話し合い、そのときの思いや感じたことから、礼儀の本当の意義について話し合ってみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・礼儀や挨拶は、気持ちを相手に伝えるための方法であることが分かった。 ・礼儀作法の形と気持ちの両方が合わさったとき、相手に感謝や尊敬の気持ちが伝わるのだと思う。 	◆日常の学校の生活と結び付けて考えることができるよう、実体験を振り返るようにする。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「この人のひと言」（「私たちの道徳」P53）を読み、自分の考えを記入しよう。 	

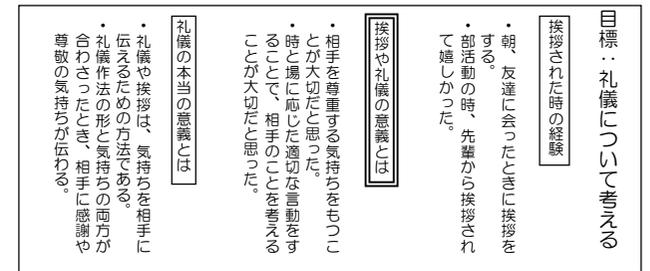
4 授業の記録

- (1) 中心発問に対する子どもの反応
 - ・相手を敬う気持ちを言葉や姿勢で示すことが大切だ。
 - ・挨拶をする場所や相手などを考えて、心を込めて振る舞うことが大切だ。
- (2) 「おもてなしハンドブック」P2への記述
 - ・自分も相手も明るい気持ちになるように笑顔で挨拶をしている。
 - ・友達や家族の心や体の調子を捉えることができるよう相手の目を見て挨拶している。

5 板書、ノート等



<「おもてなしハンドブック」P2>



<生徒の考えを整理した板書>

実践のポイント

- 挨拶の大切さについての考えを深めることができるよう、展開前半で「おもてなしハンドブック」を活用し、日頃の挨拶を振り返る場面を位置付ける。
- 適切な挨拶や言葉遣いをしようとする態度を育てることができるよう、著名人の言葉を紹介し、考えたことを振り返る場面を位置付ける。

道徳の時間での活用

羽幌町立羽幌中学校

中学校
第1学年

主題名 思いやりの心とは 内容項目B〔思いやり、感謝〕
教材名 「温かい人間愛の精神と思いやりの心を」(「私たちの道徳 中学校」P54-59)
「思いやり」(「おもてなしハンドブック 中学校」P6-9)

1 本時のねらい

思いやりの心をもって人と接し、相手の立場を尊重しながら、親切にしようとする態度を育てる。

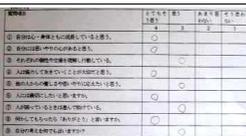
2 教材について

本教材は、思いやりのある行動に関する様々な場面の絵などから、思いやりのある行動などについて考えを深めることができる教材である。

- ① 場面1 入院している友達のお見舞いで話し込んでしまう絵の提示
- ② 場面2 宿題を忘れた友達に宿題を見せる絵の提示
- ③ 「人の気持ちがわかる人間になりたいですか。」という質問に対する全国の児童生徒の回答状況のグラフの提示

「おもてなしハンドブック」を思いやりの心を伝える具体的な行動などについて考える場面で活用することにより、道徳的实践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	○発問等(◎中心的な発問) ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	○ 事前アンケートを基に、これまで自分自身が実践した思いやりのある行動や親切な行動について話し合う。 ・友だちが困っているとき、話を聞いてあげた。 ・授業中、隣の人が落としたプリントや消しゴムを拾ってあげる。	 <p>◆事前アンケート ◆アンケートの相違点や実施例をグループで交流させる。</p>
展開前半	○ 「私たちの道徳」P54を読んで、思いやりとは何か、考えましょう。 ・人の気持ちを理解すること。 ・相手の将来のためになるように手助けすること。 ○ 「私たちの道徳」P55のそれぞれの事例について、自分の考えを記入し、交流しましょう。 ・(場面1) お見舞いに来てくれた相手を傷つけないように「暗くなってきたから早く帰ったらどう。」と声をかける。 ・(場面2) 本人のことを考え、自分で取り組むことができるよう宿題を見せるのは最後であることを伝える。	 <p><「わたしたちの道徳」P55></p>

	◎ 日常生活の中で、思いやりのある行動を実践するために、大切なことはなんだろう。 ・相手の気持ちを考える。 ・自分の気持ちを押し付けない。	◇思いやりのある行動について考え、自分の考えを記入している。(発言、記述内容)
展開後半	○ 「おもてなしハンドブック」P6-9のそれぞれの事例について、自分の考えを記入し、交流する。 ・(事例①) 「何かお困りですか。」と声をかける。 ・(事例②) いつでも話を聞くから、声をかけてね。 ・(事例③) 困っている様子が見られたら、声をかける。	
終末	○ 本時の授業をもとに、思いやりとは何かについて「私たちの道徳」P56に記入する。	◆今後の生活において、思いやりのある言動を実践できるように具体的な見通しをもたせる。

4 授業の記録

- (1) 「おもてなしハンドブック」P8への記述
 - ・教室移動の際などに、一緒に移動しさりげなく聞いてみる。
 - ・「今は一人にするけど、何かあったら素直に言ってよ。一人で抱え込むのはよくないよ。」と言う。
- (2) 「私たちの道徳」P56への記述
 - ・相手の立場になって、自分なりに考えて発言したり行動したりすること。
 - ・相手の気持ちになって、相手がされてうれしいこと。
 - ・ただ優しくするだけではなく、その人の将来にとって一番よいことをしてあげること。

5 板書、ノート等



<「おもてなしハンドブック」P8>

みんなが行ったことがある
思いやりと親切な行動

- ・落し物を拾った
- ・ボールをとってあげた
- ・電車で高齢者に順番を譲った
- ・片付けの手伝い
- ・重い荷物を持った

思いやりとはどんなこと?

- ・相手にとって役に立つことをしてあげる
- ・助けてあげる
- ・相手の気持ちを考えられること

相手の立場になって考えて行動すること

<生徒の思考を整理した板書>

実践のポイント

- 思いやりについての考えを深めることができるよう、展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、日常場面における行動を考え、交流する場面を位置付ける。
- 相手の立場を尊重し、親切にしようとする態度を育てることができるよう、本時の学習で、思いやりについて考えたことを「私たちの道徳」に書く活動を位置付ける。

道徳の時間での活用

岩見沢市立東光中学校

中学校
第1学年

主題名 あいさつとは 内容項目B〔礼儀〕
教材名 「おはよう」（中学道徳1「心をつないで」（教育出版））
 「『思いやり』って…なんだろう」（『私たちの道徳 中学校』P55-56）
 「あいさつ・礼儀」（『おもてなしハンドブック 中学校』P2-5）

1 本時のねらい

礼儀の意義を理解し、相手に対して敬愛する気持ちをもって行動しようとする態度を育てる。

2 教材について

本教材である「おはよう」は、作者が青年のときに感じていた「挨拶」に対する思いが、教師になって生徒や同僚の行動に接することで変化していくとともに、その行動の意義を深く理解させることができる教材である。

- ① 主人公は、挨拶ができないことを問題にしている大人をおかしく思っていた頃を思い出す。
- ② 中学校教師になった主人公は、生徒や同僚の明るい挨拶を見て、その大切さに気付く。
- ③ 主人公は、4月初め、新入生が先生に対して挨拶を欠いたと気付いた際、立ち止まって挨拶をし、さらに欠礼を謝した様子を見る。
- ④ 主人公は、少年の挨拶が、聞く人の心を動かし明るくする力があると振り返る。
 「おもてなしハンドブック」を気持ちのよい挨拶について考える場面で活用することにより、道徳的实践に結び付けることができるようにする。

3 本時の展開

過程	○発問等（◎中心的な発問） ・子どもの反応	◆指導上の留意点 ◇評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「気持ちのよいあいさつをしましょう」（『おもてなしハンドブック』P2）を読みましょう。 ○ 気持ちのよい挨拶とは、どのような挨拶だろうか。 ・大きな声での挨拶 ・遠くから聞こえる挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 日常の取組に目を向けさせ、資料への共通認識をもたせる。
展開前半	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「おはよう」（「心をつないで」P38-41）を読んで考えましょう。 ○ 主人公は、どうして、明るい挨拶をするのも意味のあることだと感じたのだろうか。 ・心を通わせられる。 ・された人が気持ちが良い。 ○ 新入生の少年の挨拶は、主人公がこれまで交わしてきた挨拶と何が違ったのだろうか。 ・素直な気持ちで挨拶をしている。 ・立ち止まって挨拶するなど心が行動に表れている。 ◎ 本当に明るい挨拶とは、どんなものだろうか。 ・心から自然に出てくるもの。 ・相手の心に通わせるように、目を見て、心からしっかりと元気よく挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 作者の考えを提示する。 「誠意は黙っていても通じる」 ◆ 形が同じでも、心が伴わないと違いが表れることに気付かせる。 ◆ 作者の心情から迫る。 ※ 内面的な価値を考えられるように切り返しの発問を行う。

展開後半	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「気持ちのよいあいさつをしましょう」（『おもてなしハンドブック』P2）を読む。 ○ 普段、あなたはどんな気持ちで挨拶をしていますか。 ・友達の場合は、会えてうれしいという気持ち。親の場合は、照れてぼそぼそ声になる。 ・感謝の気持ちでしている。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; color: orange;">気持ちのよいあいさつをしましょう</p> <p style="font-size: small;">あいさつは、心と心をつなぐ大切なコミュニケーションです。短い言葉のやり取りでも、お互いの気持ちを通い合わせることで、気持ちのよいあいさつをしましょう。</p>  <p style="text-align: center;"><『おもてなしハンドブック』P2></p> </div>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「この人に学ぶ」（『私たちの道徳』P52）を読みましょう。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">あいさつとは、礼儀の一つです。この礼儀について、ある人のメッセージを読みます。彼は、松下幸之助さん、パナソニックという会社を創設した方です。</p> <p style="text-align: center;">—メッセージを読んでから—</p> <p>これからみなさんは、多くの経験をします。その一つ一つの経験が心を豊かにし、本当の礼儀を身に付けることにつながるのではないのでしょうか。楽しみにしています。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の感想を書きましょう。 	<p>◇ 時と場合に応じた適切な礼儀のあり方について考えている。（記述内容）</p>

4 授業の記録

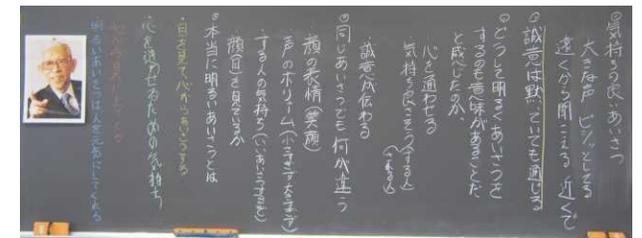
(1) 授業後の生徒の感想

- ・みんなの挨拶に対する考えを聞くことができ、もっともっと笑顔で挨拶ができるようになりたいと思いました。
- ・これからも感謝の気持ちを忘れないで挨拶をしたいです。
- ・今回の授業で改めて挨拶とは、心から気持ちを込めて言うのが大切だと思いました。これからも一人一人に気持ちを込めて挨拶をしていこうと思いました。

5 板書、ノート等



<『おもてなしハンドブック』P2>



<生徒の考えを整理している板書>

実践のポイント

- 挨拶についての考えを深めることができるよう、導入や展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、日頃の自分の挨拶を振り返る場面を位置付ける。
- 相手に対して敬愛する気持ちをもって行動しようとする態度を育てることができるよう、著名人の言葉から、学習で考えたことを振り返る場面を位置付ける。